Town Scape
タウンスケープ

宮代町

首都圏でいちばん人が輝く町

宮代町長　新井 康之氏

町長のメッセージ

宮代町は、埼玉県の東北部に位置し、大学や動物園など文化都市としての面と、屋敷林や田んぼなど多くの自然がバランスよく調和した町です。令和3年度は、町民の皆さんと何度も話し合いを重ねて作った第5次宮代町総合計画のスタートの年であり、新しい10年が始まります。

コロナ禍にある今この時だからこそ、人と人とのつながりを大事にし、お互いにはげましあい、サポートのできる町でありたいと思っています。そして、総合計画の未来像「首都圏でいちばん人が輝く町」を町民の皆さんとともにつくっていきたいと考えています。

はじめに

宮代町は、埼玉県の東北部、都心から40km圏に位置し、東は杉戸町、南は春日部市、西は白岡市、北は久喜市に接している。

鉄道は、東武動物公園駅を起点に、都心に向かう東武スカイツリーライン、栃木・群馬方面に向かう東武伊勢崎線、日光方面に向かう東武日光線の3路線が走っている。都心にスムーズに出られるのはもちろん、北関東方面へのアクセスも良い。道路は、東北自動車道の久喜ICや蓮田スマートIC、圏央道の幸手ICも便利に利用でき交通利便性に優れている。

また、今年秋には、東武動物公園駅西口エリアに新たな複合商業施設のオープンが予定されている。敷地面積は2万㎡を超え、東武ストアと無印良品が出店するほか、敷地内には約1,200㎡の芝生広場が整備される。駅前の新たな顔、地域の交流の場として、さらなるにぎわいが期待されている。

第5次総合計画のワークショップの様子

和戸横町地区に新たな工業団地も誕生する。本地区は、町の北端に位置し、圏央道が中央を南北に通過し、圏央道幸手ICから約5km圏内、東北自動車道久喜ICから約3km圏内に位置する。物流を中心とした産業拠点の形成を図ることを目的として、現在土地の基盤整備工事が進められ、今年の夏頃から建築工事が始まる予定である。

町民みんなで作った第5次総合計画

昨年10月、「第5次宮代町総合計画」が策定された。過去3年に亘り、市民ワークショップなどを通じ、多くの町民が意見を出し話し合いを繰り返して作り上げたものである。

計画期間は、今年度から令和12年度までの10年間。「首都圏でいちばん人が輝く町」を町の未来像とし、これを実現するための4つの構想―「宮代らしさを価値として高めていく」「コンパクトな町の強みを活かす」「さまざまな活動や主体を生み出す」等―と、13の方針からなっている。

宮代町は、都市的に洗練された面と、居心地の良い田園的な面を有しており、この都市と田園の絶妙なバランスが「宮代らしさ」である。次の10年はこうした「宮代らしさ」を価値として高める機会ととらえ、住みたい、住み続けたいと思える町になることを目指す。

今年度は総合計画の初年度として、様々な分野で新たな取り組みが始まる。

宮代町概要

人口(2021年4月1日現在)	33,792人
世帯数(同上)	15,268世帯
平均年齢(2021年1月1日現在)	49.2歳
面積	15.95㎢
製造業事業所数(工業統計)	18所
製造品出荷額等(同上)	63.8億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	186店
商品販売額(同上)	143.8億円
公共下水道普及率	73.6%
舗装率	65.3%

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか

主な交通機関

●東武スカイツリーライン　東武動物公園駅、姫宮駅
　東武伊勢崎線　和戸駅
　東武日光線　東武動物公園駅
●東北自動車道　久喜ICから町役場まで約10km

すてっぷ宮代と西原自然の森の活用事業

今年5月、旧ふれ愛センターがリニューアルされ、福祉・交流の拠点「福祉交流館　すてっぷ宮代」として生まれ変わる(表紙写真)。町内に分散している社会福祉協議会、福祉作業所ひまわりの家・すだちの家を集約し新たな福祉の拠点とし、障がい者と健常者との交流が生まれる空間づくりを行う。障がい者が製作した作品等を展示・販売するスペースを設けるなど、町内外の方や福祉事業者などが広く交流できる施設となることを目指している。

さらに、すてっぷ宮代が立地する西原自然の森を、多くの人が集う交流の場とするために、里山体験事業、移築民家活用、新たな福祉の拠点づくりの3つの事業を展開する。

里山体験事業では、市民との協働により、西原自然の森のコンセプトづくりや、里山体験イベント・整備保全活動等を実施する。移築民家活用では、「旧加藤家」「旧進修館」などの指定文化財を、美術作品の展示・音楽活動などの文化活動や体験講座、地域活動のために、町民が利用できる仕組み作りを行う。新たな福祉の拠点づくりでは、セミナーやイベントを開催し、災害ボランティアや福祉推進員などのボランティアを育成したり、ワークショップや交流会開催など、福祉団体同士が連携するきっかけとなるプラットホームづくりを行う。

対象タクシー会社とタクシー利用料金の助成券

宮代型デマンド交通事業

町では、宮代町の地勢や特性に合った新たなデマンド交通の導入に向けて、実証実験を開始する。

高齢化の進展による移動困難者の増加、町内循環バスのルートでない地域や身体的な理由で循環バスが利用できない方のニーズに対応するため、循環バスを補完する地域公共交通として、高齢者等タクシー助成事業(実証実験)を実施する。75歳以上の高齢者や障がい者等を対象として、400円の助成券を年間最大36枚配布しタクシー利用料金を助成する。

先進自治体の調査やタクシー会社からの意見聴取など、昨年度に行った検討結果を踏まえて、今年度から実証実験を始める。利用状況の分析や利用者アンケートを実施し効果と課題を検証、循環バス・タクシー助成制度を含めた地域公共交通の方向性を定め、令和5年度から次期循環バスの運行とタクシー助成制度を本格実施する計画である。交通手段がないために、外出を控えている高齢者の割合を10%以下にする目標を掲げている。　(樋口広治)